

東京桑野会会報

●2018年4月1日発行●発行・編集人 古川清●発行所 東京桑野会事務局 〒101-0044 東京都千代田区鍛冶町2-9-5 東園ビル7階 新神田法律事務所内



安積歴史博物館（旧本館）
画：母校美術科 櫻村俊智（98期）



No.40

- ①桑野の母校に学んだという共通の経験に結ばれた同窓の親睦の会であること
- ②会員はみんな仲良く相親しみ楽しい会であること
- ③何らかの意味で会員の頼りになるような面もある会であること

ご挨拶



東京桑野会会長
古川 清

本年は不確実性に満ちた年という気がする。世界のあちこちで緊張と軋みが生じており既存の秩序が不安定化している。トランプ大統領の問題発言に余り驚かなくなった嫌いがあるし、欧州では難民問題を軸として無気味な内部対立が生じ、間隙を縫って極右政党が支持を伸ばしている。中東ではスンニー派の雄サウジアラビアとシーア派の雄イランの間の複雑かつ微妙な対立が顕在化しつつありイエメンやシリアでは内戦が続いている。アジアでは更に深刻な事態が発生しており、北鮮の核・ミサイル開発と中国の「中華民族の偉大な復興」政策が周辺諸国に不安と緊張感を与えている。北鮮に対しては何回も国連安保理決議が採択されているがさしたる効果はあがっていない。

本年は吾々の先輩朝河貫一・元イェール大学歴史学教授の没後70周年に当たり、様々な記念行事が計画されている。彼が活躍した20世紀初頭も世界は不確実性

に包まれていた。特にアジアでは多くの国が独立を失い、植民地化されたが、一時は世界のGDPの三分の一を生産していた超大国「清」も没落し、帝国主義諸国の餌食となった。日本は日清・日露の勝利で浮かれてしまい「バスに乗り遅れまい」とばかり朝鮮半島や満州への進出を計ったが、この政策に対し、透徹した歴史観をもって「待った」を掛けたのが朝河貫一であり、その警告は名著「日本の禍機*」に凝縮されている。

*講談社学術文庫784

結局日本は彼が危惧した通りの誤った道を辿り敗戦の悲劇を味わうことになるのだが、私は今日若し彼がいませば、この時代において如何なる忠告を吾々日本人に与えるかをじっくりと思ひめぐらしてみたいと思っている。今般77期の樽井保夫氏が「日本の禍機」の現代語訳を完成出版され読み易くなったのは嬉しいことである。

東京桑野会平成30年度 定期総会・懇親会のお知らせ

下記の要領にて実施します。会員の皆様は、万障お繰り合わせの上ご出席賜りますようお願い申し上げます。

●日 時：平成30年6月8日（金曜日） 16：00受付開始

●場 所：ホテル椿山荘東京 [東京都文京区関口2-10-8]
JR目白駅、または東京メトロ有楽町線江戸川橋駅 下車
電話 03-3943-1111

●会 費：懇親会費 ¥8,000 東京桑野会年会費 ¥2,000
(合計 ¥10,000)
120期以降の若手会員は、年会費・懇親会費合計 ¥6,000
学生につきましては、年会費・懇親会費合計 ¥3,000

●タイムスケジュール

16:00 (午後4時) ~ 受付開始

17:00 (午後5時) ~ 平成30年度東京桑野会定期総会

17:30 (午後5時半) ~ 講演会

講師：本田 宏 (86期)

NPO 法人医療制度研究会副理事長

演題：外科医36年を顧みて

18:00 (午後6時) ~ 懇親会

東京桑野会は会員皆様の年度会費によって運営されています。

総会当日にご出席できない会員の皆様には、同封の振込用紙で年度会費2,000円のお振込みのご協力をお願い申し上げます。

◇準備の都合もございまして、出欠の返事は同封の葉書で、5月31日(木)までにご返送くださいますようお願い申し上げます。

事務処理の都合上葉書には必ず住所、氏名、期を記入してください。葉書にはアンケートもございまして、ご協力ください。

◇また、連絡もれがあるかと思われるので、先輩、同期、後輩もお誘い合わせのうえ、多数の出席をお願いいたします。

◇昨年度は、2017年5月31日(水)に、平成29年度定期総会・懇親会として開催されました。前年に引き続き昨年も、プロのヴァイオリニストで幅広くコンサート活動やヴァイオリン指導を実施している加藤菜々子様(120期)の演奏会にもなったり、サプライズで元安積女子高生花かつみ会より『安積フィメールコール東京』合唱団メンバーが飛び入り参加し美しいコーラスの披露があったり、大盛況の会となりました。参加者数は、来賓及び講演会講師の5名、学生会員7名、一般会員110名、花かつみ会から7名の総勢129名となりました。

母校便り

☆母校は今年(2018年)、創立134周年を迎えます。その母校の現在の様子を、母校からの情報をもとに紹介いたします。

☆母校の学校祭は、創立期の末尾が0、3、5、8の年に開催されます(いつからこのようになったのでしょうか?)。在学中に2回経験できる期と、1回しか経験できない期が出てしまうのですが、1回しか経験できない期、それも最終学年の3年生は気合の入りが違いますね。学校祭は「紫

旗祭」と名がつけられ、創立133周年の紫旗祭が2017年9月2～3日に実施されました。“紫花繚乱～魅せよ我らの色彩～”、キャッチフレーズ、センスあるな。

☆名物はなんとといっても仮装行列ですね。「女装する男子生徒」と「裸になる男子生徒」は今の時代も健在(?)です。そして最高学年3年生(131期)は、クラス企画の紫旗祭全体総合順位の1位、2位、3位(2クラス)を独占しました!受験学年である3年生が活躍する、この期は凄いです。

☆色々な「甲子園」が行われるようになりました。第7回「科学の甲子園」

全国大会(科学技術振興機構主催)へ母校が出場しました。母校の出場は3回目になります。各都道府県からの出場校も凄い。盛岡一高、秋田高、宇都宮高、千葉高、筑波大付属駒場高、岐阜高、膳所高などなど、各都道府県の名門が勢ぞろい。開催期日は平成30年3月16日～19日(於さいたま市)ですので、結果はこの会報の印刷には間に合いませんが、頑張れ安高生!

☆運動部も頑張っています。硬式テニス部が、平成30年3月開催(於福岡県)の全国高等学校新人体育大会の個人・団体に出場しました。こちらの結果も、この会報の印刷に間に合いませんが、

春の薫風を待っています。

☆大学受験の状況を少し。130期からは(2017年3月の卒業)、国公立大学へ計139名が合格しました。私立大学へは計330名が合格しました。少子化による受験生数の減少が目立ってきた現在、母校も一番生徒数が多かった時代に比べれば三分の二の生徒数になりました。合格者数も総数は少なくなったものの、内容的には一定のレベルを維持している模様です。新しい安積OB・OGの皆さん、東京に出てきたら東京桑野会に来てください。

会員消息

○逝去された方々のご冥福をお祈りいたします。()は期、逝去された日。

関 俊吉(45期)

作田 正夫(46期)(平成29年1月4日)

市川 衛門(51期)(平成28年5月11日)

佐瀬 秀文(52期)(平成29年3月)

大島 進(55期)(平成29年4月4日)

岩崎 博(55期)(平成29年11月24日)

仲本 和弘(56期)(平成28年11月1日)

山田 進(56期)(平成25年5月17日)

石川 衛三(57期)(平成29年3月19日)

菅間 恒(57期)(平成28年3月19日)

横山 康吉(57期)(平成25年)

溝井 庸夫(62期)(平成28年11月7日)

大津 隆(63期)(平成30年1月25日)

安斉 忠雄(64期)(平成28年12月16日)

笠原 昭重(64期)(平成28年12月30日)

高野 泰一(64期)(平成29年3月18日)

若目田宏三(64期)(平成29年3月2日)

矢吹 眞也(65期)(平成28年2月13日)

栗原 良雄(66期)(平成28年12月20日)

水谷 和夫(66期)(平成29年2月4日)

藤井 栄一(68期)(平成28年6月28日)

佐藤 健剛(70期)(平成29年5月12日)

小松 捷利(70期)(平成29年1月20日)

河村 保紀(72期)(平成29年3月31日)

関 重信(73期)(平成28年4月20日)

上野 富衛(78期)(平成29年6月24日)

橋本 竹嗣(81期)(平成27年)



ご挨拶

安積桑野会会長
安孫子健一(80期)

東京桑野会の会員の皆様にはお元気でお過ごしのことと拝察致します。昨年も安積桑野会の活動に御協力頂き、感謝申し上げます。また昨年の貴桑野会の総会では大変お世話になりました。総会議事の内容はさすが東京桑野会らしいなと感じました。議長が会長

人事について図ったところ早速発言があり、整然としかも熱のこもった推薦理由を述べられた会員の、古川会長に対する信頼感は実に強いものがありました。古川会長のお人柄、そして桑野会と同窓生に対する深い思いがひしひしと伝わる総会でした。これからも安積に学んだという共通の経験を基に親睦を深め合い、お互いが頼りになる会として発展されることを願っています。

一方昨年9月9日に安積桑野会の総会が開催され、皆様のご推挙により再び会長職をお引き受けすることになりました。微力ではありますが引き続き

2年間各地桑野会との交流を深めながら、会の発展に寄与して参りたいと思いますので、宜しくお願い致します。

一昨年までは、総会・講演会は旧本館講堂で行い、懇親会はホテル等へ会場を移動して催していました。しかし総会参加者が微減する傾向にある中、会員からは会場移動が不便で大変だとのお声もあり役員会で検討の結果、昨年は総会行事全てを郡山ビューホテルで実施させて頂きました。当日は担当幹事各期の皆さんの綿密な準備と努力のお蔭もあり、懇親会は予想を大幅に上回る約200名の参加を得ることができました。急遽椅子・テーブルを増設

ひととき、日々の喧噪を離れて。



そこには、さながら森のような庭が広がっています。

東京のまん中にいるとは思えない、静寂につつまれたやさしい時間を、心ゆくまで味わってください。

At Hotel Chinzanso Tokyo, we are honored to share this heritage with you through our services and accommodations and especially our legendary garden. Discover the essence of Japanese hospitality.



ホテル椿山荘東京
〒112-8680 東京都文京区関口2-10-8
10-8, Sckiguchi 2-chome, Bunkyo-ku, Tokyo, 112-8680, JAPAN
TEL.03-3943-1111

世界をもてなす、日本がある。



HOTEL 椿山荘 TOKYO
CHINZANSO

しましたが間に合わず、一部担当幹事には立食をお願いする事態となりました。出席された皆様にも少なからずご迷惑をお掛けしましたが、3年前から実施している古希を迎えられた方々のご招待には20名を超える79期の同窓生の参加があり、また女性会員の方々も見受けられ、ますますの結果かなと思っと思っています。今年も同じ方式で開催予定ですので、東京桑野会の皆様のご出席をお待ちしています。

さて大震災から7年が過ぎ、被災した旧福島県尋常中学校本館（安積歴史

博物館）の再オープンから3年半が経過しました。震災前の展示物の復元を進めているところですが、手が回らず未完の状態となっています。その一つに久保猪之吉博士の展示コーナーがあります。久保博士は安積5期・明治26年卒業、その後一高・東大で学んだ後ドイツへ留学、帰国後京都帝国大学福岡医科大学（現九州大学）で日本初の耳鼻咽喉科教授となった方です。日本の耳鼻咽喉科学会の祖とも言われ、旧本館にはご遺族や門下生のご好意で顕彰コーナーが設けられていま

した。しかし、復元は何分にもボランティアの善意と限られた人員に支えられての作業のため、遅れ気味となっています。在校生に博士の生い立ちと業績を伝える為にも一刻も早く復元したいと考えています。今後の旧本館の維持と財団法人安積歴史博物館の円滑な運営の為にも、会員の皆様の一層のご支援を宜しくお願い致します。

最後になりましたが、会員の皆様のご活躍と健康をご祈念申し上げます。



「安積の絆」

安積高等学校校長
渡辺 昇(90期)

昨年4月に母校安積に着任しました。昨年5月31日椿山荘で行われました東京桑野会定期総会には、我孫子健一桑野会会長とともに出席し、古川清会長はじめご出席の皆様と親しく接することができ、大変感激した次第です。90期の同級生とも久しぶりに歓談できましたし、大学時代に住んでいた学生寮（椿山荘からすぐ近くにある和敬塾という学生寮、作家の村上春樹も半年いました。）の先輩や、大学の先輩等にも30数年ぶりに再会することができ、感慨深いものがありました。都合で総会にご出席できなかった方も多数いらっしゃると思いますので、この紙面をお借りして改めて自己紹介をさせていただきます。

地元郡山市出身で、久保田前校長の2年後輩に当たる90期生です。1年次の担任は学年主任の五輪正芳先生

（数学）、2年次は安積をこよなく愛した仲村哲郎先生（日本史）。そして3年次は教育長を務められた高城俊春先生（日本史）でした。大学卒業後、福島県の高校教師（英語）となり、特に平成4年から平成12年度までの9年間は母校の教壇にも立つことができ、高校時代に自分が受けた御恩を少しでも生徒に還元したいという思いで指導に当たってきました。平成13年3月、まさに安積が共学になる年、甲子園での応援を思い出に、男子校最後の安積を離れました。この間、卒業生を3回（108, 111, 114期）送り出してきました。その後、福島県教育庁にも二度勤務し、昨年度まで2年間は、県教育センター所長を務め、昨春、思いもかけず17年ぶりに母校勤務となりました。

安積に着任して1年が経過したところですが、校長として一番強く感じるのは、安積桑野会の皆様の母校に対する熱い思いであります。全国各地で安積桑野会が開催されておりますが、同窓生でもあり、都合のつく限り出席するよう努め、5月末から10月にかけての土曜日の夕方、盛岡、仙台、福島、福島県庁、郡山市役所、須賀川、東京、関西の各支部にお邪魔しました。（本

宮、石川、宇都宮には日程の関係で残念ながら出席できませんでした。）どの支部総会においても、安積の学舎に学んだ誇りとなつかしさにあふれ、それぞれの過ごした時代の違いはあっても、安積で過ごした日々を多くの同窓生と共有したいという、強い連帯感が感じられ、私自身も胸が熱くなりました。これほど同窓会の活動が活発な学校は他校に例をみないことであり、改めて安積の絆の強さを感じた次第です。

同窓生の皆様のお陰で、今現在も安積の良き伝統、校風は、先輩方から脈々と受け継がれており、在校生は安積の精神の下、文武両道に励み、進路目標の実現に向かって邁進しております。グローバル化の進展やAIの飛躍的な進化により、社会が急速に、かつ大きく変化しつつありますが、安高生には高い志を掲げ、自己の可能性に挑戦し続けることにより、社会に貢献できる人間になってほしいと願っております。

東京桑野会の皆様には、今後とも引き続き母校へのご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

日本橋ふくしま館 ミデッテについて

菅沼孝雄 (91期)

JR新日本橋駅2番出口から中央通りに出て徒歩わずか1分のところに、福島県首都圏アンテナショップ「日本橋ふくしま館ミデッテ」(写真1)があります。

ミデッテは、大震災及び原子力災害からの風評払拭と福島県のイメージ回復のため、本県が誇る日本酒、果物、菓子等の特産品や伝統工芸品などの魅力をPRするとともに、四季折々の多彩な観光情報や食の安全・安心に向けた取組等、復興に向かう「ふくしまの今」を首都圏で発信する拠点として、平成26年4月12日にオープンしました。

ミデッテには毎年度35万人を超える来館者があります。特に売れ筋の商品は、ホームページのトピックスで毎

月公表されています。例えば、平成29年11月の売上ランキングでは、1位がままだおる、2位が厚揚げかまぼこ、3位がうまくて生姜ねえ、4位が清酒ペアグラス、5位が飲み比べセットでした。5位の飲み比べのうちプレミアムコースは、4位の瑠璃漆グラスで県産日本酒を楽しめます。

日本酒といえば、福島県は、全国新酒鑑評会で金賞受賞数5年連続日本一(写真2)という「全国トップクラスの酒処」です。首都圏での「酒処ふくしま」の知名度を上げるため、一昨年、昨年と、夏にはJR新橋駅SL広場で、秋には六本木ヒルズアリーナで、それぞれ「ふくしまの酒まつり」を開催し、数多くの銘柄の飲み比べや果物等の県産品販売など大好評をいただいています。

当局では、昨年2月に、東京都内でふくしまの酒を扱っていただいている飲食店を紹介するサイト「福の酒」を立ち上げ、その登録店舗数は308件(平

成29年12月28日現在)に上っています。

ミデッテは、昨年12月1日にリニューアルオープンしました。特に日本酒コーナーを拡充し、首都圏では最大規模となる400種類を超える県産酒を取り揃えております。また、定住・二地域居住コーナーも新設し、県内各地の魅力と福島県の「いま」を情報発信しております。

このように、数多くの魅力的な商品をお買い求めいただけるほか飲食・交流コーナーでは、日替わりで県内各地のラーメンやそばなど「ふるさとの味」も楽しめますので、外回りの昼食や仕事帰りにどうぞお立ち寄りください。

こうしたミデッテの楽しい・お得な情報は、「ミデッテファンクラブ」からお届けいたします。登録会員を募集中ですのでぜひミデッテのホームページからアクセスをお願いいたします。

ミデッテでは、根本卓也館長はじめスタッフ一同、心のこもったおもてなしで皆様をお迎えいたします。また、ミデッテを所管する観光交流局県産品振興戦略課では、若林和彦主幹兼副課長(99期)*が、整備・運営の要として活躍しています。東京桑野会員の皆さまのご愛顧とお力添えをよろしくお願ひいたします。*所属は2018年2月時点 (福島県観光交流局次長*)



写真1 ミデッテ全景



写真2 全国新酒鑑評会金賞受賞22銘柄

故郷を味わう、故郷に触れあう

そば うどん 酒処

鞍手茶屋

昼はボリュームたっぷりで
ヘルシーな そば・うどん
夜は品揃え豊富な
東北の地酒で一杯

大手町店 〒100-0004 東京都千代田区大手町1-1-3 大手センタービルB1 ☎03-3213-2385
中山峠店 〒963-1304 福島県郡山市熱海町国道49号線中山峠 ☎024-984-3774

〈店主〉上野千恵子

「一生やるなら音楽」という声を聞いて

鈴木茂明 (84期)

昭和43年4月、安積高校の入学式当日、校門を入ると合唱部員の澁刺とした歌声が迎えてくれました。初めて聞く男声四部の重厚で魅力的なハーモニーは私の心を震わせ、私は迷うことなく合唱部に入部したのです。まさかこのハーモニーが一生を決定づけることになるうとは思いませんでした。

当時音楽室は、現在国の重要文化財となっている本館一階の端にあり、奥の階段の下の狭いスペースが部室でした。授業のない時間はそこに立て籠もり、音楽室が使える時は自己流のピアノを弾く喜びに浸っていました。一学年も終わる頃、二学年からは希望により文科系と理科系にクラスが分かれるため、これは一生に関わることに真剣に悩みました。そして約一か月後、毎日心の中に聞こえてきたのは「一生やるなら音楽」という不思議な声でした。それなら文系と決めると同時にピアノ、ソルフェージュ、声楽などのレッスンに通うようになり、勧められるままに国立音楽大学声楽科に入学したのです。

音大では、シラー、ゲーテ、アイヒェンドルフなどの文豪の作品にシューベルト、シューマン、ブラームスなどの歴史的作曲家が付曲したドイツリートを主に学び、ことばと音楽

の力強い結合がもたらすドイツ歌曲の魅力に惹かれていました。テキストを読むだけでは感じられない詩の内面が歌うことにより立ちのぼる。魂を充足させてくれるものでした。

卒業後は合唱指揮も任されるようになりましたが、最初の出会いは開校したばかりの筑波大学混声合唱団でした。その後OBが中心となり発足した混声合唱団コーロ・ソフィア、女声合唱団コーロ・コスモスその他の指揮、ヴォイストレーナーを務めています。合唱指揮者としてまず考えなければならなかったのは選曲でした。専門のドイツロマン派の合唱曲のほかに、どのような邦人作品を与えるべきか悩み、探しました。そこで出会ったのが高田三郎作品でした。その作品は、本物の文学と音楽が高いレベルで結合された、まさしく〈日本のドイツリート〉と言うべき作品だったのです。

また、高田は第二ヴァチカン公会議の後、日本カトリック司教団の要請を受け、約220曲の典礼聖歌を作曲しました。日本伝統音楽とグレゴリオ聖歌のことばのリズムと旋法を融合させたその作品は、グレゴリオ聖歌に劣らない日本人の深い心からの祈りを引き出す聖歌となっています。

今後わが国の貴重な合唱曲、典礼音楽として歌い継がれていくであろうこれらの作品を、日本人の音楽家として深めなければならないと心から感じた私は、2000年に帰天されるまで20年以上にわたり、指揮法、演奏法を高田に学び、作品の研究と普及に務めて

きました。その活動の中心は、私の指導する合唱団員約150名で1993年より始めた高田作品のみによる「リヒトクライス演奏会」です(写真1)。毎年開催し、今年の2月3日、24回目を迎えました。(於：東京オペラシティコンサートホール、タケミツメモリアル)

現在は声楽家(写真2)、合唱指揮者、発声法指導者、合唱コンクール審査員などで活動しながら、高田三郎の日本人の「魂の歌」を、演奏後継者としてどのような声でいかに表現するのかの模索、研究が続きます。

愛する故郷のために… 安女OG合唱団《安積 フィメールコール東京》

庄司紀子
(安積女子高校33回卒)

2011・3・11、突然に訪れたあの日。焦りと戸惑いの中で在京の私達に何ができるのか…。取るものもとりあえず立ち上げた『ふるさと応援プロジェクト』でした。

若き日に安女合唱部で、渡部康夫先生指揮の下に歌った者たちが、世代を超えて2000年から東京の地に集い、恩師の人生最後の日々を共にしながら楽しく歌っていました。しかし、その師の逝去からちょうど1年後に起こった大震災が、私達の在り方を大きく変えたのです。

ホームページ上の呼びかけに、思いがけず多方面からの賛同をいただき、翌2012年1月、母校・安積黎明高校合唱団を東京に招いてのジョイントコンサートを実現できた喜びは今も忘れることができません。

このコンサートは、震災で校舎が壊れ体育館での授業を余儀なくされ、さらに市民文化センターも使用不能になり、演奏の場を失った母校の生徒た



写真1 リヒトクライス演奏会



写真2 リサイタル

ちを励まそうと企画したものでした。テーマは“つながる、つたわる、つたえる…ふるさと福島のために”。メンバーの想いが凝集したこのフレーズは、その後の《安積フィメールコール東京》の礎ともなりました。

期待を超えるコンサートの成功と相まって、原発事故による首都圏への避難者施設の訪問や、復興を支援するさまざまな会への出演の機会もいたただく中、私達のささやかな活動はNHKその他のメディアにもたびたび取り上げられました。

そして2014年、母校との第2回のジョイントコンサートを開催。さらに次を求める温かい声に励まされ、2017年夏に第3回を実現することができました。東京桑野会の皆様にも、この時は特にご尽力を賜りましたこと、この場をお借りし心より御礼申し上げます。

大ホールを満席に埋めるお客様に見守られ、過去2回にも優る感動のうちに幕を降ろしましたが、そこには特筆すべき2つのトピックがありました。



湯浅譲二先生と
(2016年6月『JCDA北とびあ合唱の祭典』にて)

■湯浅譲二作曲『ふるさと詠唱』（詩・三谷晃一）

1982年、安女が創立70周年を記念し、郷土が誇る世界的作曲家（東京桑野会の会員でもられる）湯浅譲二氏に委嘱した作品です。当時カリフォルニア大学で教鞭を執っておられた湯浅先生は、遠い故郷の原風景と、そこに成長する安女生の内面と感性を重ね合わせ作曲したとのこと。この珠玉の難曲を再び演奏することが、故・渡部康夫先生から私達に遺された課題でした。今回、湯浅先生が病み上がりの身をおしてご来場くださり聴いていただけたことは、私達にとって何にも勝る幸せでした。

■出身校の枠を超えた合同ステージ

詩人・和合亮一氏と作曲家・信長貴富氏に、福島県合唱連盟が創立70周年を記念して委嘱した作品「楽譜を開けば野原に風が吹く」の東京初演が、最終ステージを飾りました。曲目は他に「群青」「赤とんぼ」等…。これらを共に歌う仲間を公募したところ、安積高校の卒業生はもとより、福島県出

身のみならず全国から想いを寄せる人たちが集まってくれたのです。名実ともに“つながる…ふるさと福島のために”となったことに深い感慨を覚えています。

震災から7年。思えばその間の私達の歩みは、歌の力の大きさ、そして故郷の素晴らしさを再確認するものでした。共に学び、歌うことに明け暮れた青春の日々…。故郷を離れて長い時を経た今もそれは宝物です。この絆に感謝しながら、歌い続けて行きたいと思っています。

(安積フィメールコール東京代表・ピアニスト)

東京学生寮の生い立ち

会報編集委員会

母校・(旧制)安積中学／安積高校出身者が東京の大学に進学するにあたり、保護者が安心して預けることのできる寄宿舍の存在は心強い。東京在住の安積OBが中心となって、大正10年(1921年)10月に安積出身者のための学生用寄宿舍「東京桑野寮」が開設された。場所は東京・戸山ヶ原と同窓会名簿の年表に記録されているが、『安積中学校五十年史』には、『戸塚町(戸塚原一丁)』との記載があり、現在の新宿区戸塚町1丁目・西早稲田1丁目あたりだったと推定される。既に開寮当時、早稲田大学や早稲田中

小橋クリニック

院長 小橋主税 (86期)

福島県須賀川市仁井田大谷地172-3
TEL 0248-72-1555

学の校舎と運動場、電鉄車庫や大隈邸などが建っており、その周辺の民有地ではないかと考えられる。当時の状況では神田川以南は戸山ヶ原の一部と考えられており、年表の記録は間違っていない。その後手狭になって戸塚町伊勢原（現在の新宿区高田馬場4丁目）に、さらに最終的には中野区新井薬師町（現在の中野区新井5丁目）に移転した。昭和20年（1945年）5月の大空襲で焼失するまでの24年間、学生達の生活の場となった。また一方では、安田財閥の安田善五郎（安積17期生）が私財を投じて東京・牛込に「積善（せきぜん）寮」を開設したのは、昭和4年（1929年）4月であった。こちらも昭和20年5月の大空襲で焼失するまでの16年間、学生達の生活の場となった。後者は食事を含む寄宿費用だけでなく、学費までも賄ってくれたと言われている。「積善」とは、安田善五郎の父で安田財閥の創始者である安田善次郎の言葉「積善の家に必ず余慶あり」から取ったというが、文字通り安積の「積」と善五郎の「善」を組み合わせていることも偶然ではない。残念ながら戦後に再建されることはなかったが、多くの学生達がお世話になった。前会長の澤田悌（42期）もその一人である。現在の場所は記録がなく、よく分かっていない。

昭和30年（1955年）になって、福島県は千葉県松戸市松戸に男子学生寮、東京都渋谷区幡ヶ谷に女子学生寮

を開設した。安積出身者に限定されたものではなく、福島県出身者のための学生寮である。県の補助を受けながら低料金で生活できる、戦後の学生達の憩いの場所であった。しかしながら入寮する学生数の減少と、老朽化や耐震強度不足による再建資金に目処がたらず、平成23年（2011年）3月末で閉鎖となった。東日本大震災の直後のことであった。その後の公的な福島県学生寮は建設されることはなく、それぞれ大学毎に設置された学生寮（対象は全国）の充実化と相まって、個々の出身県が運営する公益法人の学生寮については必要性が低下していった。

しかしながら例外ではあるが、会津出身の大学生らが生活する東京都文京区千石の会津学生寮「至善（しぜん）寮」は今もなお運営されており、開設の大正6年（1917年）から数えて昨年2017年10月1日に開寮100周年を迎えた。公益財団法人として運営され、元白虎隊士の山川健次郎が学生寮設立に関わり「会津の絆」精神を受け継がれていると聞く。ちょっとうらやましい。

さて話は戦前の東京桑野寮に戻る。当寮は大正10年（1921年）10月17日、東京・戸山ヶ原に木造2階一戸建ての民家を借用し、開設された。賄いのために寮母さんが住み込んでいた。母校を卒業した大学生や専門学校生の寄宿舎としての役割はもちろん、都内に在住する他の卒業生や母校との連絡、

上京した安積の教員や生徒の宿泊、在校生や卒業生同士の東京での懇親の場所としても重要な拠点となった。この寮名が親睦団体「東京桑野会」の語源となったとも言われている。大正12年（1923年）5月戸塚町伊勢原に移転した東京桑野寮は、さらに9年後の昭和7年（1932年）7月28日に中野区新井薬師町で売りに出していた病院を四千円で買い取り移転した。2階建の母屋と平屋の離れの2棟であり、土地は借地権であった。資金は全額安積中学後援会が出資し、半分を寮生が5年間かけて返済したと言われている。安積の友愛を育んだ学生寮であったが、昭和20年（1945年）5月24日の夜10時頃から始まった米軍B29の爆撃を受け、翌日未明に焼失し寮母の石塚トヨさんが焼夷弾の直撃で死亡、多くの寮生が焼け出された。以来、戦後に再建されなかったことは残念である。戸山ヶ原開寮時の寮長は、大方政一（31期）でスタート時は寮生5名、24年間で総勢75名の寮生が生活した。安積国造神社の宮司であり安積幼稚園の前園長、安藤重春（43期）も東京美術学校在学時だけでなく、画家として制作作業をしながら当寮で過ごしたと言う。空襲の下で寮母の石塚トヨさんと手を取って逃げ出したのは、津田喜三次（55期）であると1990年9月1日付朝日新聞デジタルのデータベース記事で明らかになっている。最後の寮生のひとりである。

戸山ヶ原の開寮の地は地番が分からず所在の特定はできなかったが、移転後の寮の所在場所は旧地番が分かっており、戸塚町伊勢原838番地の方は現在の新宿区高田馬場4丁目25番、JR高田馬場駅南の「諏訪通りガード」をくぐって西へ300m進んだ付近の右手北側で、新井薬師町255番地の方は現在の中野区新井5丁目13番、新井薬師公園のすぐ東隣である。これらの地を訪ねて写真を撮影したので、



いずれ皆さんにはご報告する所存である。

最後に肝心な東京桑野会の名称について、諸説あるものの東京桑野寮の命名者が箭内互（当時、東京帝大文学部助教授、安積6期）であったと記録が残っていること、開寮した翌年の大正11年（1922年）秋に開催された在京同窓会の席で東京桑野会という呼称を既に使用していること、その出席者に箭内互の名があることから、東京桑野

寮から派生して命名されたものと容易に推定される。この時の同窓会出席者は、堀田貢、鈴木利平、中澤彦吉、箭内互、久米正雄、寺田四郎、南大曹、濱田四郎、七海兵吉らであった。その後、昭和初期発行の安積野には、仙台桑野会、京都桑野会、台湾桑野会の名が書かれている。組織的な名称として会則にて決定されるのは、戦後の昭和26年（1951年）7月になってからである。

【参考文献】

- 1) 福島県立安積中学校五十年史
昭和9年（1934年）3月31日発行
- 2) 安中・安高百年史
昭和59年（1984年）9月8日発行
- 3) 安積野67号
昭和13年（1938年）2月1日発行
- 4) 国土地理院 新宿区および中野区分地図（大正12年、昭和10年実測）



安中・安高百年史より
新井薬師町の東京桑野寮

写真家大森博君の 泥味亭

渡邊隆一郎（81期）

東京メトロ東西線神楽坂駅を下車し、矢来口を出で左に1分ほど行ったビルの地下に、その店はある。木の立て看板に「泥味亭」の文字。あたりには新潮社をはじめ大手出版社や編集プロダクションが集まっている。

店内に入るとカウンターと奥にテーブル席があるこじんまりとした割烹風な店である。奥さんと80年に開店して37年たったというこの店の主人で料理人の大森博君は、私と安積の同級で日本大学芸術学部映画学科に進んだ。がしかしその後、詳しい事情は知らないが途中でやめてしまった。私は大森君がやめてしまった後に映画学科に編入してきたので学内で彼とは会っていない。安積時代には彼と映画の話をした記憶はないので映画科に進学し

不法電波は
やめましょう！

技術と奉仕の無線機器部門
ソフト開発と奉仕のコンピュータ機器部門
ニーズに対応、奉仕の電話機器部門
株式会社富士通ゼネラル通信特機特約店
富士通テン株式会社特約店

ATIS(自動識別装置)を
必ず取り付けましょう！

株式会社 山口電機

www.yamaguchi-denki.co.jp

本社 宇都宮市宮の内2丁目184番地18
水戸支店 水戸市中河内町67番地1
さいたま支店 さいたま市三橋1丁目815番地1
東京支店 江戸川区春江町2丁目10番3号
千葉支店 千葉市稲毛区六方町215番地22
高崎支店 高崎市倉賀野町5319番地1
会津若松支店 会津若松市一箕町八幡38番地11号
横浜支店 横浜市青葉区元石川町3719番地8

TEL(028) 655-1600(代表)・FAX(028) 653-7817
TEL(029) 227-2205(代表)・FAX(029) 227-2237
TEL(048) 663-4000(代表)・FAX(048) 663-4274
TEL(03) 3698-1600(代表)・FAX(03) 3698-1699
TEL(043) 423-3000(代表)・FAX(043) 423-3503
TEL(027) 346-4000(代表)・FAX(027) 346-4004
TEL(0242) 23-1700(代表)・FAX(0242) 23-1701
TEL(045) 921-5100(代表)・FAX(045) 921-5416

代表取締役 山口雄機（74期）

たと聞いたときは意外な思いだった。
私は在学中から映画の世界に助監督として働き始めたが、大森君は写真家の道を選んだ。写真家はそれぞれ得意分野、テーマを持っている。動物を専門に撮っている方もいれば、きれいな女性しか撮らない方もいるし、戦場を駆け巡っている方もいる。大森君はアウトドア派、自然派とでもいうのだろうか。山岳や川のせせらぎ、人の生活といった自然の風景・ドキュメントの中にテーマを見つけたようである。個展もたびたびひらいていて、その集成が写真集「端景」に結実した。また自分の原点に向かい合ったかのような東日本大震災後の故郷の桃見台小学校、第5中学校、安積高校の荒れた校庭を切り取った写真は、言いようのない怒りを見るものに思い起こさせる断片だった。

それにしても現役の写真家として活躍しているのはリタイアした我が身と比べてうらやましい。まだ働いているよとカウンターの向こうから笑顔が返ってきた。

話を泥味亭に戻そう、正直なところ店にはこれまで1回しか行ってない。しかも満席で、大森君から「ごめん」と断られた。周辺は出版社などが多く16席は開店早々すぐいっぱいになってしまうらしいのだ。行くなら予約していくのが賢明だろう。

今回久しぶりに神楽坂に出かけてみた。大森君と会うのは磐梯熱海であった同級会以来12年ぶりだ。リタイアしてすっかり出不精になっていたのだが、その時今度店に来てくれと言われていたのを思い出して重い腰を上げた。地下の木の扉を開けて「久しぶり」と声をかけたら、元気そうな笑顔が迎

えてくれた。

もともと実家は魚屋である。魚をさばくのにはこだわりがあると奥さんが言っていた。同級生には大森君を含めると魚屋の息子が3人いた。他の2人はすでに鬼籍に入ってしまった。開店時間は6時、開店してすぐに客でいっぱいになりそこかしこで客の声が弾んでいる。カウンターの中では大森君と奥さんが料理を作っている。新鮮な刺身や三陸の牡蠣、白子のポン酢和えなど酒がすすむ。いい感じの時間が流れていく。

神楽坂のはずれの大人の隠れ家といった風情だ。料理がうまい。酒がすすみ、いい気分が帰途についた。飲みすぎにはご用心だ。

(泥味亭：

〒162-0805 新宿区矢来町118-6
石本ビルB1 Tel.03-3267-5844)

「ワカモノ」だから、分かること。

秋屋 光 (127期)

先日、同期の仲間や広告代理店の方と囲んだ、お酒の席でのことです。

「今の若者って、昔とだいぶ恋愛の仕方が違うよね」

こんな話が持ち上がりました。しかし自分には、この言葉の意味する所について、イマイチ本意を理解できませんでした。さらに続けて、

「俺たちの世代はさ、それこそ恋愛ぐらいしかすることなかったよ。しかも出会いの場が限られている分、内輪でのカップルが多かった。携帯も無いしね」

と言うのです。そこでやっと、「たしかに！」と思いました。それもそのはずでしょう。僕たち若者からすれば、今のスタイルが当たり前なのです

から。周りの人にうまく指摘されない限り、違和感を感じることはありません。

「この話題面白そうだね！よし、次の会議テーマはこれにしよう！」

僕が所属する団体「ワカスタ」では、いつもこんな感じで会議のタネが生まれます。

僕が「ワカスタ」での活動を始めたのは、2016年の秋頃です。正式には「ADK若者スタジオ」と名付けられたこの団体は、ADKの社員と若者が、一体となって若者を分析する組織として結成されました。その活動は大きく分けて4つに分類されます。若者の周りで起こっている現象の分析、若者視点から見たブランドの課題分析、若者ならではのアイデアを活用した商品開発、そして若者によるキャンペーン提案、以上の4つです。僕達の活動を一言でまとめるなら、

若者自身が若者を分析し、若者を動

かしていく

ことだと言えるでしょう。具体的な実績を挙げるならば、「映画de価値観マッチング」「プリブレ」「ワカスタビジコン」、こんなところでしょうか。日頃の分析や研究をもとに、様々なクライアントに対して若者をターゲットとした施策を提案していきます。若者としてはより自分たちの好みに合った、クライアントとしてはより効果的な、キャンペーンやイベントの実現を取り持つことが、僕たち「ワカスタ」の目指す所です。

より良い施策を考えるに当たり、面白い現象を見つけるためにはコツがあります。例えば、普段から自分自身の行動を再認識する癖を身につけることがその一つです。時間帯によるコンビニの使い方、バイトとインターンの使い分け、スマホのアプリ配列。当時、なぜ自分はその選択をしたのか、一つ一つ細かく解き明かしていくのです。

これにより、今までなんとなく過ごして来た日常だけに限定しても、注目すべき現象や傾向はいくつも浮かび上がってくるでしょう。

「ワカスタ」では、そんな若者特有の現象について、誰よりも早く認識し、そして具体的な施策に結びつけていきます。最終的には「ワカスタ」が、若者の全員が知る、若者スペシャリスト集団として君臨できればと考えています。もしもどこかで機会があれば、ぜひお声掛けください。若者独自の新鮮な発想を、いちはやくお届けすることをお約束します。

(芝浦工業大学デザイン工学部)

私の大学生活

遠藤祐太郎 (127期)

127期の遠藤祐太郎と申します。よろしくお願ひ致します。現在は早稲田大学スポーツ科学部の3年生です。

「スポーツ科学部？どんなことを勉強しているの？」と思われた方、いらっしゃると思います。実際に、初めてお会いした方に「スポーツ科学部の学生です」と自己紹介をすると、大抵の場合はそのような質問をされます。そこで今回は、スポーツ科学部がどんな場所か、また、私がどのような勉強をしてきたのかを紹介させていただきたいと思います。

スポーツ科学部にはいろいろな学生がいます。多くの人は硬式野球部やラ

グビー部、駅伝などで活躍する運動部に所属する学生をイメージすると思いますが、全員が運動部に所属しているわけではありません。私のようにサークルに所属している学生や、普段全くスポーツをしない学生もいます。それどころか、スポーツが好きではない学生もいます。スポーツ好きな人ばかりだと出てこない意見があるので、スポーツ嫌いの人の意見や視点は大変貴重で、面白いと思います。2年生からは7つのコースの中から選択し、学習を進めていきます。スポーツ医科学コース、トレーナーコース、健康スポーツコース、スポーツコーチングコース、スポーツ教育コース、スポーツビジネスコース、スポーツ文化コースの7つです。私はこの中からスポーツビジネスコースを選択し、スポーツ政策・スポーツビジネスを学ぶゼミに所属しています。スポーツビジネスを学ぶことのできる学部は日本では少なく、とても貴重な勉強が出来ていると思います。昨年は、笹川スポーツ財団主催のSport Policy for Japanという日本のスポーツの現状や将来について問題意識を持つ大学3年生が政策提言を発表するコンテストに研究リーダーとして出場しました。タイトルは「災害復旧・復興支援のためのファンタジースポーツ政策」です。簡単に内容を説明します。東日本大震災などの災害復興にかかる資金やこれから起こるであろう南海トラフ地震などの大災害にかかる復興資金を、スポーツの力で

補うことはできないか、という内容です。ファンタジースポーツというアメリカで大変人気のあるゲームを日本に取り入れ、その収益を災害支援に回すという政策案です。スポーツは、社会を、人々の生活をよりよくするための手段の1つだと思います。だからこそ、私たちはスポーツで社会に貢献できる政策を考えました。

次に所属しているサークルでの活動を紹介します。私はSports of Japanというサークルに2年生から入りました。スポーツに関する話題の議論やプレゼンなどを行うサークルです。一昨年の早稲田祭では、「VRを通して今後のスポーツ観戦はどのように変わっていくのか？」というテーマでVR体験会とゲストスピーカーをお呼びしてトークショーを開催しました。みなさん、想像してみてください。VRを使えば、スタジアムにいなくても、目の前でトップアスリートが試合を行っているような臨場感のある試合観戦が家の中で出来ます。ARやMRを使えば、STAR WARSに出てくるホログラムのように、リビングのテーブルの上で試合を行うアスリートを見ることが出来るかもしれません。夢がふくらみませんか？

拙い文章でしたが最後まで読んでいただき、ありがとうございました。今回、寄稿させていただく機会をいただき、私自身、これまでの3年間の大学生活を振り返ることができました。ありがとうございました。

展覧会

平成30年12月12日(水)~24日(日)まで土日会展
国立新美術館 作品 **チャグチャグ馬コの風景**
(194×582cm)

高松 ゆたか(74期)

ギャラリー **たかまつ**
(<http://takamatsu.tokyo>)

小濱 精吾 (58期)

(MOTOMIYA出身)

安高は自分の心の拠りどころ

医療法人社団 松弘会
トワーム小江戸病院

院長 医学博士 **渡辺 哲弥 (70期)**

(練馬区東大泉7-14-15)

安積歴史博物館便り

橋本文典 (84期)

東京桑野会の皆様はじめ多くの方々のご支援の下、今日も博物館の業務を催行させて頂いております。

さて、平成29年も多くの方々にご利用されましたので、皆様にご報告させていただきます。先ず安積高校関係としては、今年度開催された「紫旗祭」においてその会場として使用され、講堂では卒業生によるコンサートが協賛として実現しました。また紫旗祭の期間も含め「安中・安高OB絵画展」も催され多くの来館者に恵まれました。さらにその後も卒業生を中心としたコンサートも開催され何れも大成功でした。

また、安高生も参加した市内の高校生による合唱や吹奏楽の練習、一般の方々との練習会場としても講堂はじめ教室が利用されました。その際に初めて建物内に入る方も多く、目前に広がる

明治の雰囲気には圧倒され一様に感激を味わっている様子でした。

また昨秋には、福島県立博物館主催の「はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト」のイベント会場として3週間にわたって使用していただいたこともありました。

さらに特筆すべきこととして、桑野会主催博物館共催で「ウォーナーの謎のリスト」の上映会があります。終戦間際、米軍の空襲から、不思議と文化財や神田古書街が避けられました。そのリスト作成に朝河貫一博士が少なからず関わったのではないかとというドキュメンタリー映画を、集まった約300人が鑑賞した有意義な上映会となりました。

また朝河貫一博士没後70年を控え、県教育委員会の要請により当館役員等が作成した「朝河貫一博士の功績」の資料が、県内中学校・高校に教育資料として活用されています。この資料は教育委員会ホームページに掲載されていますのでご覧ください。



こうして一年を振り返ってみますと、この建物で青春の一時期を過ごした安積関係者のシンボルであることを基盤としながらも、新たな役割が求められているような気がいたします。文化財を考える視点として、従来は建物の保存と維持が第一義でしたが、昨今は保存と活用が目的になりつつあります。

当財団としては積極的に対外活動を進め、広く皆様に文化財への興味を抱いていただくと共に、近代日本における地方教育の一舞台となった旧本館が此処に存在し続けることの重要性に理解を示していただきたいと考えております。そして、往時も今も若者の勉学の場として、さらには生涯学習の場としても活用されることを望んでおります。桑野会会員の皆様にとって「旧本館」は身近にある文化財です。次の世代に引継ぐ文化と歴史が郡山にも有ることを再確認していただければ幸いです。最後になりますが、維持管理のため、引き続きご支援とご援助を衷心よりお願い申し上げます。

(公益財団法人 安積歴史博物館 業務執行理事)

安積の縁で小説を

伊藤 隆 (80期)、 東京桑野会広報部

伊藤隆 (80期) 氏が、安積の卒業生との縁をモチーフに小説を書かれました。伊藤氏は「輸入ピアノ.com」

晴海パートナーズ法律事務所
税理士法人晴海パートナーズ

代表弁護士 後藤 大 (107期)

〒104-0045

東京都中央区築地2-15-19

ミレニアム築地6階

E-mail: gotodai@harumi-partners.jp

「晴海パートナーズ」で検索ください

TEL: 03-6264-1588 / FAX: 03-6264-1589

古川 清 (63期)

村山 俊司 (61期)

自宅: 東京都町田市金井3-13-7

TEL & FAX: 042-734-8876

携帯: 090-5999-4814

の代表取締役社長を務められています
が、本を出版するための出版社を立ち
上げられ、出版の準備を進めていま
す。その原稿を拝見し、東京桑野会
報にも紹介したいと思い、小説の冒頭
部分を紹介させて頂くことといたしま
した。(東京桑野会広報部)

《ここから小説を紹介します》

「私はあなたの娘です。

ショパンの調べに載せてつづられ
る、穏やかで、
熱い恋の物語。

澤 潤平 (伊藤 隆)】

--冒頭部分--

「私も、郡山です。 安高です。」

新宿・四谷三丁目の新宿通りから新
宿方面に向かって、ほんの少し左に
入った、それほど大きくない居酒屋
「よつやのうさぎ」という店で、カウ
ンターに座って隣の客と話をした時
のことだ。

私は、いつもお隣さんに声をかけ
る。

一人で飲むの良いが、やはり誰かが
いた方が楽しい、酒もうまい。

きっと、それは誰でも、同じだと私
は思う。

ひと仕事やり終えて、一人住まいの
部屋へ、帰ってみても、一人酒ではな
んとなくわびしいものだ。

そこで、私は隣の席にいた客に声を
かけた。

「私は、福島県の郡山です。」

と自己紹介したとたん、
「私も、郡山です！安高です！」
と言いながら、一人の女性が店の隅
の方から駆け寄ってきた。

まだ若い、澁漣とした、知的な雰
囲気を感じさせる女性だった。

私は、その子を一目見た瞬間、とて
も言いしれない懐かしさを感じた。

「私は119期です。」

「僕は80期だ。」

これが、彼女との最初の出会いだ
った。(以下、続く)

--

朝河貫一顕彰協会便り

矢吹 晋 (70期)

「朝河貫一顕彰協会の活動」につい
てご報告したい。2017年の活動とし
て特筆すべきことは、樽井澄夫氏 (安
積高校77期) により、『現代文で読む
「日本の禍機」』(朝河貫一顕彰協会
事務局刊、2017年6月) が刊行され
たことであろう。近年、内外情勢の激
変するなかで「もし朝河博士が存命な
らば、どのような指針を示されるであ
らうか」という声がしばしば聞かれる。
先に顕彰協会会員の武田徹、梅田秀
男、佐藤博幸氏により『100年前から
の警告——福島原発事故と朝河貫一』
(花伝社、2014年5月) が出版されて
いるが、いまこそ朝河貫一の声に耳を
傾けようという意見が聞かれるよう
になったのは、慶賀の至りである。樽井

訳により、高校生や中学生にとっても
朝河の古典が読みやすくなったもの
と思われる。

さて2018年は朝河貫一没後70年
である。これを期して、朝河貫一記念
シンポジウムが3つ計画されているの
で、ご案内したい。第一は早稲田大
学大隈講堂で7月22日(日)に予定
されているシンポジウムである。こ
れは文学学術院甚野尚志教授(西
欧中世史)を中心として、学生にも
広くアサカワを知ってもらうこと
を主眼として準備されている。甚
野教授は福島高卒の俊英であり、
若さを活かして県立図書館の朝
河貫一文書の整理等にも力を入
れている。

第二は、7月23日(月)郡山市民
文化センターで予定されている没
後70周年記念シンポジウム『朝
河貫一博士からのメッセージ』
である。早稲田と郡山の、二つの
シンポジウムが相次いで開かれる
のは、イエール大学からダニエル
・ボツマン教授等関係者を招く
ので、そのスケジュールに合わせ
て、東京版・郡山版を計画した成
行きである。

第三は、10月20日(土)東京六
本木の国際文化会館で予定されて
いるシンポジウムである。これは
二本松市出身の安斎隆氏(元日銀
理事、現セブン銀行会長)が中心
になって企画中である。朝河貫一
の名を冠したイベントだが、その
中心テーマは「日米関係のあり
方」を語り合うシンポジウム
であり、内外の錚々たる顔ぶれ
が招かれて

弁護士 齊藤 英彦 (69期)

がんばれ安積 がんばれ日本

渡邊 龍一郎 (81期)

Watanabe Ryuichiro

〒170-0004 東京都豊島区北大塚2-31-5-513
Phone: 090-1429-6127
E-mail: watanabe2021@ryu.bz

労働保険の特別加入
1人親方労災保険加入のご用命は!

労働保険事務組合
神奈川県 S R 経営労務センター

会長 佐藤 重夫 (79期)

(特定社会保険労務士)

事務局 〒231-0005 横浜市中区本町4-36
朝日生命横浜本町ビル8F
TEL: 045-212-5269
FAX: 045-212-3177
<http://www.kanagawa-src.gr.jp>

いる。

古川清会長は、これら三つの会で顕彰協会を代表して挨拶される予定である。協会を結成して10余年、大きな節目を迎えた感慨を抱く。

※シンポジウム日程については、3月24日の朝河貫一顕彰協合理事会にて確定します。変更があった場合等については、東京桑野会HPにてアナウンスする予定です。

(朝河貫一顕彰協会代表理事)

ホームページの 運用状況報告

—創設15年目の活動と
アクセス状況—

<http://www.tokyo-kuwano.com/>

芳賀雅美 (86期)

(東京桑野会ホームページ委員長)

昨年末に現役時代に勤務していた会社の同僚OB同士20名程の忘年会があり参加した。15年程前に同じ情報システム部で勤務が一緒だったA先輩と隣席になり、退職後の近況を語り合ったが、ある団体の公式ホームページを管理していると聞いた。東京桑野会のホームページ管理人である私にとっては、運営の秘訣を聞くチャンスとばかりA先輩へ運用状況を尋ねた。同窓会である当会とは全く事業目的が異なっており、そのホームページは仕様が完全会員制でIDとパスワードの入力を求める。活動の一部にコンサー

トチケット抽選配布やカレンダー・手帳などの物品販売に、年会費の銀行口座引き落としといった業務も含まれ、会としての運営上のセキュリティ管理は格段に厳しい。しかしながら当該ホームページが、昨年未知の第三者によるサーバ侵入により改ざんされてしまったらしい。会員の個人プロフィールはサーバ内ではなく別管理していたため、個人情報の漏洩はなかったが、ホームページの内容は全壊しアクセス不能となった。会の活動に関するアルバム写真、会員向け限定の会報誌、氏名とは結び付かないID / パスワードのセットは流出した恐れがあると思われる。会員数やアクセス数が当会のものと比較にならないほど多く、多額の現金も流れていることからハッカーに狙われたらしい。ホームページを預けていたホスティングプロバイダー会社の管理ミスではないかと私は思ったが、賠償も問えず現在はプロバイダーを変更した上でバックアップを使用して復元作業中とのこと。大変な苦勞をしている様子でいささか驚いた。個人名と銀行口座番号が漏洩していたら、会員からの賠償責任問題に発展したであろう。

それに比較し当会ホームページは不特定多数に一般公開しているオープンなものであり、今年で16年目に突入するが、改ざんはおろかハッキングされた形跡はない。一部の掲示板にロボットによるスパム文書の自動書き込みをされた時期があったが、今は完全

にブロックしており顕在化していない。プロバイダーの選定が良かったのか、カネの匂いもしない地方高校の同窓会ごときのホームページにハッカーたちが見向きもしないのか、無事に過ごしている。とにかくにも今の管理状況は良好だとひとまず胸を下した。しかしながら本事例は他人事ではない。いつわが身に降りかかってくるかもしれない、危機管理をしっかりと進めておきたい。改めて申し上げるが、会員情報に関するデータはホームページのサーバ内では管理しておらず、ホームページに侵入されても漏洩することはない。

前置きが長くなってしまったが、本題の当会ホームページ運営活動の話をしよう。毎年の会報での年間活動報告は早いもので回を重ねて15回目となった。昨年度についても障害やトラブルは全く発生せず、平穩無事にホームページを運用することができた。ご利用いただいた会員の皆様に深く感謝を申し上げたい。

この15年目についての改訂や追加コンテンツについて簡単に記しておく。個人情報保護法が改訂され、昨年2017年5月30日に全面施行となった。これに伴い当会も個人情報取扱事業者と見なされ、法規制の対象となった。個人情報保護に関する事案を得意とする会員の弁護士(副幹事長)とベテラン弁護士の幹事長により、当会における「個人情報の保護に関する基本方針」を定めてホームページ上に掲示した。

あらゆる**木質の床**を心を込めて施工します。
OK工法(床工事・内装工事)・調湿床・乾式設床・フローリングボード
フローリングフロック・塗床・ネダホーム・OAFフローその他一式工事

木質床(フローリング)施工

孝和建商株式会社

千葉県中央区汐見丘町16番12号

取締役総務部長 小林伸久(84期)

電話:043-245-4111 FAX:043-244-9550

携帯:080-2045-0962

E-mail:nobuhisakoba@docomo.ne.jp

21世紀をリードする
安積SPIRIT!

浅川 章 (76期)

東京桑野会副会長

〒338-0821さいたま市桜区山久保2-18-3

電子メール: chobi@hyper.ocn.ne.jp

ごうや
山田・合谷・鈴木法律事務所

弁護士 鈴木 修一 (89期)

〒100-0012

東京都千代田区日比谷公園1番3号

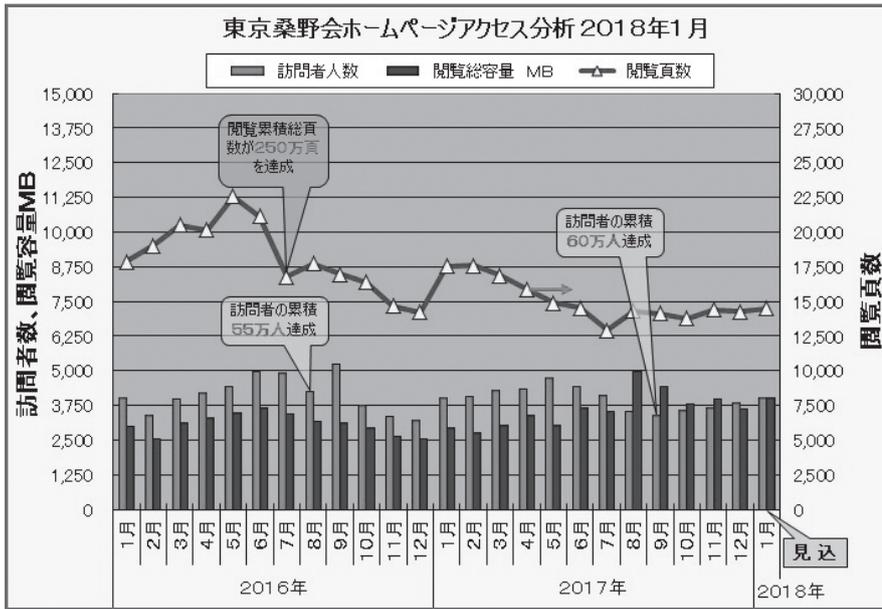
市政会館1階115号室

TEL:03-3501-0451

FAX:03-3501-0452

E-mail:shuitsuzuki@nifty.com

<http://www.yamada-law.gr.jp>



東京桑野会ホームページへのアクセス状況

また、当会会則について取引銀行からの要望により修正が必要となり、昨年5月の総会にて会則改訂の承認をいただきホームページ上に公開した。新規コンテンツとしては、会員投稿のブログ形式記事を5件掲載した。健康・医療関連記事2件、震災に関する論説1件、昨年度の東京桑野会総会の講演会要旨1件、福島県アンテナショップ紹介1件である。さらに当会の沿革について会員からの問合せに従って再調査し、改訂版を差し替えた。また安積OBクイズを追加改訂し、5名増の38名とした。その他、ゴルフ同好会活動報告、安積関連イベント紹介6件を掲載した。更に例年通りではあるが、会長の新年度ご挨拶、役員・幹事名簿の更新、総会・懇親会の結果報告、夏の

甲子園野球福島県大会組み合わせの紹介についても、引き続き改訂して掲載した。主なコンテンツ追加・改訂はこんなところであろうか。

さてここでいつもの通り、当会ホームページへのアクセス状況について詳述する。この原稿を書いている1月までの経過を過去2年間分のグラフで示しておく(別掲の図を参照:今年1月は見込みの数値)。グランドオープン以来、昨年9月に訪問者総数60万人に達し、今年1月末には閲覧総頁数278万ページビューに達する見込みである。この1年間の平均で、月に訪問者3994人、閲覧総頁数14577頁で推移しているが、訪問者数で前年比4.8%減、閲覧総頁数で前年比19.1%の大幅減となった。訪問者数は昨年が絶好調

だったので、やや減は仕方がないと思うが、閲覧総頁数の大幅減は痛いところである。昨年・一昨年に引き続き3年連続の減少である。なんとか月間平均で閲覧総頁数2万ページビューを越えたいと個人的には考えている。一般的に言ってアクセス数が低調で伸び悩んでおり、引き続き会員の皆様のご協力を賜りたく切に望んでいる。またコンテンツや情報の提供につきましても、随時事務局へご連絡頂きたく、再々であるがご協力についてこの場を借りてお願いしたい。

最後に毎年の決まり文句ではあるが、今後とも会員の皆様のご期待に沿えるよう、充実したページ作りに励みたいと考えている。重ねて当委員会への参加または情報提供を広く会員の皆様をお願いしたい。

(出光興産(株)非常勤)

福島県のインバウンド戦略について ～実は凄いことをやっている～

菅沼孝雄 (91期)

福島県の外国人観光客宿泊者数は、震災前約87千人でしたが、原発事故による風評で平成23年は3割にまで減少しました(図1)。平成28年は震災前の約82%まで回復したものの、この間の全国の伸び率(約2.5倍)に比べると、大きく立ち後れている状況です。

株式会社 富士ハイエンジニアーズ
一級建築士事務所

代表取締役 (管理建築士) **遠藤 修** (67期)

(一級建築士)
(一級建築施工管理技士)
(一級土木施工管理技士)

〒215-0015川崎市麻生区虹ヶ丘一丁目18番6号
☎: 044-988-7387 携帯:090-3212-2892
FAX: 044-988-7547
E-mail: o-endou@river.ocn.ne.jp

石井総合事務所

司法書士・行政書士

石井 俊一 (82期)

〒104-0061東京都中央区銀座8-8-15
青柳ビル7階

TEL :03-3289-1411
FAX :03-3289-1422
E-mail : s-ishii@e-1411.com
http://www.e-1411.com

Dr.本田の
社会保障切り捨て日本への処方せん
2018年2月 自治体研究社、本田 宏著

本田 宏 (86期)

元埼玉県済生会栗橋病院 院長補佐
NPO法人医療制度研究会 副理事長
前大学講師・立教大学兼任講師
日本医学会連合労働環境検討委員会委員
外科医を引退して3年、講演や市民運動を通して
社会保障 & 日本再生を目指しています。
hondahiroshi@me.com 090-3205-9482

このため、福島県では、平成28年に創設された東北観光復興対策交付金を活用し、戦略的なインバウンド対策を講じてきました。

まず、「伝わる」情報発信を目指し、グーグルのインストリーム広告を利用しました。

平成28年9月に配信開始したオーストラリア限定のスキー動画広告は、1週間で180万回再生（30秒以上視聴を1カウント）という記録的なものでした（大分県の「おんせん県シンフロ」動画でも1年2か月かけて130万回）。同国のスキー人口は約360万人といわれていますので、そのうち約半分の人に伝わったことになります。

また、平成29年2月に配信開始した「ダイヤモンドルート」動画広告は、1週間で、5バージョン合計1千万回を超える再生を記録しました。特にサムライをモチーフとしたHistory編がスペインなど欧米を中心に好評で、同年5月のスペイン人宿泊者数は前年比61倍の伸びを示しました。

次に、福島への世界的な風評の払拭

には、正確な情報の発信だけではなく、旅行先として福島を選択させることのできる「強力なコンテンツ」が必要です。

そのため、台湾を中心にブレイクしている只見線第一橋梁の絶景（写真1）や、ドリフトの聖地で欧米人に人気のエビスサーキットなど、外国人に響くコンテンツを、SNSを始めとしたデジタルプロモーションにより売り込んできました。只見線ビューポイントには、昨秋、91期同期の旧友と訪れましたが、期待どおり台湾人観光客ばかりでした。エビスの名物ドリフトタクシーは、その約8割が外国人で、周辺の岳温泉や土湯温泉への宿泊が増えているそうです。

次に、外国人向けフェイスブック上の「one to one」の対応を始めました。

平成28年8月にタイの現地で開催したFB「We love Fukushima」は、1年2か月でフォロワー数が117,000人を超え、自治体のタイ向けFBとして日本一となりました（2位は沖縄県で約10万人）。これは、個別の問い合



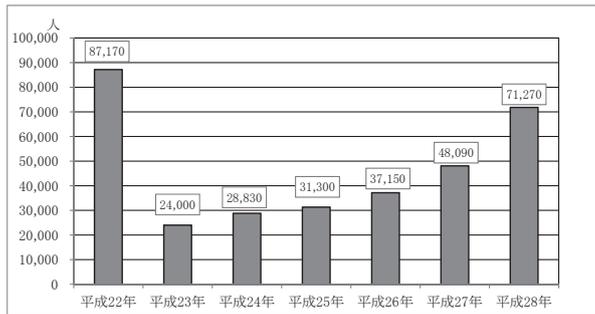
写真1 只見線第一橋梁（三島町只見線ビューポイントより）

わせや相談に丁寧に回答していることがFBの満足度につながっているからです。

福島県は、有名観光地という切り口では他の都道府県に遠く及びませんし、おそらく今後30年経ってもその状況は変わらないと思います。今年のリクルートじゃらん宿泊旅調査（国内旅行ですが）でも、今後の来訪意向ランキングは33位でした。一方で、同調査の満足度要素全9項目中、トップ10入りした項目が「地元の人ホスピタリティ」7位のみであったにもかかわらず、総合満足度で初めて9位に入ったことが注目されます。国内外を問わず、観光客に心を込め丁寧におもてなしをしていく、それこそが福島県の目指す最大の戦略になるのではないかと考えております。

以上の取組は、橋本明良観光交流局長（91期）*、吾妻嘉博観光交流課長（96期）*の卓越したリーダーシップによるものです。引き続き、会員の皆さまのお力添えをよろしくお願いたします。*所属は2018年2月時点

（福島県観光交流局次長*）



出典：観光庁「宿泊旅行統計調査」（福島県観光交流課）※従業者数10人以上の事業所

図1 福島県の外国人宿泊者数

株式会社開成プランニング 代表取締役
<http://www.kaisei-planning.co.jp>

和田 正哉 (77期)

〒102-0073 東京都千代田区九段北3-2-2
 勤務先電話：03-3230-8001
 FAX：03-3230-8550
 携帯：090-3236-3883
 e-mail: wada@kaisei-planning.co.jp
 携帯mail: wada-masanori@docomo.ne.jp
 自宅電話：047-332-2287

奮い立て我健男児

大矢 真弘 (88期)

株式会社櫻井計画工房
 取締役 一級建築士

櫻井 淳 (78期)

〒231-0014
 住所：横浜市中区常盤町2-10
 常盤不動産ビル2F106
 TEL: 045-663-9271
 FAX: 045-663-9273

平成 28 年度決算報告書

I 収支計算書 (平成28年4月1日～平成29年3月31日)

	決 算 額	予 算 額
収入の部		
(1) 前年度繰越金	306,909	306,909
(2) 年会費収入	1,005,000	900,000
(3) 総会費収入	1,036,000	1,000,000
(4) 協賛広告料	290,000	290,000
(5) 受取利息	4	80
(6) 雑 収 入	80,804	30,000
収入合計	2,718,717	2,526,989
支出の部		
(1) 総会懇親会費	1,067,500	1,000,000
(2) 通 信 費	51,560	50,000
(3) 会 議 費	0	0
(4) 会報作成費	375,840	375,840
(5) 会報発送費	297,656	297,657
(6) 事務消耗品費	126,872	150,000
(7) 母校後援費	0	20,000
(8) 冠婚葬祭費	0	20,000
(9) 支払手数料	45,128	50,000
(10) 人 件 費	380,000	380,000
(11) 交 通 費	0	20,000
(12) 名簿編集費	0	0
(13) ホームページ・広報部会運営費	24,960	40,000
(14) 雑 費	0	10,000
(15) 予 備 費	0	30,000
支出合計	2,369,516	2,443,497
次期繰越金	349,201	

平成 29 年度予算案

(平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 3 1 日)

	予 算 額
1 収入の部	
(1) 前年度繰越金	349,201
(2) 年会費収入	1,000,000
(3) 総会費収入	1,000,000
(4) 協賛広告料	310,000
(5) 受取利息	4
(6) 雑 収 入	30,000
収入合計	2,689,205
2 支出の部	
(1) 総会懇親会費	1,100,000
(2) 通 信 費	50,000
(3) 会 議 費	0
(4) 会報作成費	362,664
(5) 会報発送費	282,936
(6) 事務消耗品費	150,000
(7) 母校後援費	20,000
(8) 冠婚葬祭費	20,000
(9) 支払手数料	50,000
(10) 人 件 費	380,000
(11) 交 通 費	50,000
(12) 名簿編集費	0
(13) ホームページ・広報部会運営費	40,000
(14) 雑 費	10,000
(15) 予 備 費	50,000
支出合計	2,565,600
次期繰越金	123,605

II 財産目録 (平成29年3月31日現在)

A 特別会計

事業準備積立金 定期預金 (三井住友銀行) 1,067,652

B 現預金

(1) 普通預金 (三井住友銀行) 240,116
 (2) 郵便振替貯金 107,195
 (3) 現金 1,890

上記は監査の結果いずれも適正なものと認める。

平成29年4月12日

会計監査 関 根 健 治
 会計監査 丹 治 則 男



【協賛広告のお願い】

東京桑野会会報は、三千数百部を発行し、母校・安積高校や福島県立図書館などにも納入されております。“安積卒業生の心意気”を協賛広告で示してみませんか。お問い合わせは事務局まで。

【事務局からのお願い】

会報の発送は、会員各位の住所動向に大きく左右されます。住所が変わっていると、折角の会報も戻ってきてしまいますので、住所変更の際は東京桑野会の事務局まで、ご連絡下さいますようお願い申し上げます(東京桑野会ホームページにも、連絡先を表示しております)。安積桑野会の方にご連絡された方も、ご面倒でも東京桑野会の方にもご連絡下さい。

【会費納入のお願い】

東京桑野会の活動は、会員の皆様の会費によって支えられています。会報の作成・送付も会費によって賄われています。現在、会報を送付している会員からの会費納入の達成率が低迷し、東京桑野会の財務が逼迫しつつあります。東京桑野会の健全な財務状態を維持するためにも会費納入をお願いいたします。(東京桑野会は安積桑野会とは別会計となっておりますことご承知ください)

編集後記

今年の会報特集は『東京の福島・安積を訪ねる』と決まり、国立国会図書館のデータベース検索や安積歴史博物館、都内の図書館などに出向いて資料をあさり、東京での安積の痕跡を探して取材した。学生寮については大正から昭和初期の話で建物は残っているはずもないが、現地と思われる付近の写真を撮影し、かつて大先輩達が希望に燃え上京し、この地を闊歩してののだという想いに馳せ、感動した。現在とは違って郷里は遠く、東京とは言っても利便性は今と比べようもない。進学のために上京した10代から20代初めの若者たちは、さぞや心細かったであろう。当時の在京OBたちは彼らを支援し、自然発生的に東京桑野会は生まれた。在京同窓生の親睦だけではなく、母校との連絡や上京した母校教職員・生徒達の面倒までみたという。大先輩達に感謝感謝。(がっちゃん)

イラストは、こよなく母校安積の旧本館を愛してやまない現職美術教員98期の榎村俊智先生にお願いしました。

作品を見て驚きました。旧本館雪積の風景です。手足が、かじかむのでス

ケッチは無理かと思う日の作でした。

その昔、私たちは素足で朴歯の高下駄で通学したことを想い起こしました。雪道でハラヘッタになり弁当は午前中にからっぽ。昼は売店のアンパンで凌いだと思います。

雪に埋もれた校舎に立向い、凍える手で学び舎を描きとった榎村先生の情熱に、凄さを感じます。心をこめてお礼を申し上げます。

(イラスト係 74期 高松ゆたか)

合唱の原稿が二つ、元合唱部として楽しく読ませていただきました。鈴木茂明さんの男性合唱を聞いた時の感激は、私も当時を思い出します。私の場合は1年生の時、美術部で絵を描いている時に、合唱の魅力に吸い込まれるように、2年生から合唱部に移りました。同期の山下君は日フィルのあと合唱を指導している様子で、東京桑野会で合唱部の同窓会でも開きたいと思いました。／同級生の鞍手茶屋の上野君が昨年亡くなった。同期会で随分世話になったが、豪快でいて、しかし繊細でいい奴だった、早すぎる。

(78期 櫻井淳)

同期の菅沼孝雄君に2つ寄稿して貰いました。在学時の生徒会仲間と合宿と称して一泊旅行に出かけています

が、去年は2回行きました。1回目は栃木・益子(益子焼きで有名)、2回目は会津です。会津では、菅沼君のアレンジで、「会津中将」と「末廣」の蔵元を探訪しました。福島midette(ミデッテ)館も福島県観光交流局がプロモートしており、早速、同期の根本孝七君がミデッテを訪問してくれました。根本君は日本橋高島屋で開催していた「島田恭子展」を見学の後、ミデッテで福島の日本酒を楽しんだのです。なお、島田恭子さんは益子の陶芸家で、さくらをモチーフにした陶芸作品で著名であり、益子探訪の際には同期の会田弘君の伝で工房を訪問させて貰いました。さて、ミデッテで彼は、飲み比べセット(500円)を堪能したとのこと。当日は《笹正宗、玄葉、白井酒造》(写真を参照)。200円の御摘みセットが完売だったので、いもくり佐太郎を摘みに、ね。玄葉さんも、根本君も船引ですね。今度、俺も行くから！(GF91)(写真は根本孝七君提供)



『東京桑野会会報』No.40

2018年4月1日発行

発行・編集人●古川 清

発行所●東京桑野会

〒101-0044

東京都千代田区鍛冶町2-9-5

東園ビル7階

新神田法律事務所内

Tel 03-3252-9671 Fax 03-3252-9673

E-mail asaka@tokyo-kuwano.com

URL <http://www.tokyo-kuwano.com/>

製 作●株式会社クワジマ

〒130-0023 東京都墨田区立川2-11-7

Tel 03-3635-4510 Fax 03-3635-4515

